

広島女学院大学
卒業生アンケート報告書（2022年度）（案）

IR委員会

広島女学院大学では、卒業予定学生を対象とした「卒業生アンケート」調査を毎年実施している。本調査は、4年間の学生生活を振り返り、本学の教育を通じて得られた成長実感、満足感について測定するとともに、教育課程、教育方法、施設・設備等における課題を明確にすることで今後の教育活動を改善していくための指標を得ることを目的としている。

[調査結果の概要]

1. 調査時期、対象者および回答率

調査時期：2022年12月21日～2023年3月15日

対象者：学部4年生（306名）、回答率：89.5%（回答者数274名）

昨年の回答率78%を上回り、目標の回答率85%以上を達成した。

2. 満足度について

質問3「広島女学院大学での教育・学習、学生生活などに関して、全体として「良い」、「楽しい」と感じるなど、満足していますか？」について、「1 とても満足している」と「2 ある程度満足している」を合わせた割合は82%。学科別では、管理栄養学科が93%、児童教育学科が88%と高い満足度を示している。

質問9から質問31では、個別の事項23項目について満足度をたずねている。全体における満足度の割合が高いものとして、「少人数・ゼミ形式の授業が充実している」（88%）、「専門的な知識が身につく」と「自分で考える力が身につく」（87%）、「先生と学生の距離が近い」（86%）などがあり、少人数ゆえに可能となる細やかな指導が徹底されていることが伺える。

3. 成長実感について

質問4「広島女学院大学に入学してから、あなたはどの程度成長したという実感がありますか？」について、「1 とても成長したと思う」と「2 ある程度成長したと思う」を合わせた割合は87%で、9割近い卒業生が成長したという実感をもっていることがわかる。学科別では、管理栄養学科が97%、日本文化学科が93%で、高い成長実感を示している。

今年度、新たに記述式の質問5「大学生活のなかで、もっとも成長に繋がった出来事、経験について自由に述べてください」を設けた。テキストマイニングの結果、「オリキャン」、「実習」、「卒業論文」、「模擬授業」、「グループワーク」など、学生の主体的な活動、実践的な学びやアクティブな学習形態に関するキーワードが多く挙がった。

今回の調査は、従来の質問内容の精査を行うとともに、成長実感に関する記述式の質問、大学のDX対応への質問などを追加して実施した。多くの観点（項目）において高い成果を示す結果となった。これらを各学部学科、学内他部局とも共有し、さらに高い教育効果と満足度、学生から選ばれる大学づくりを目指して教学改善を続けていく必要がある。